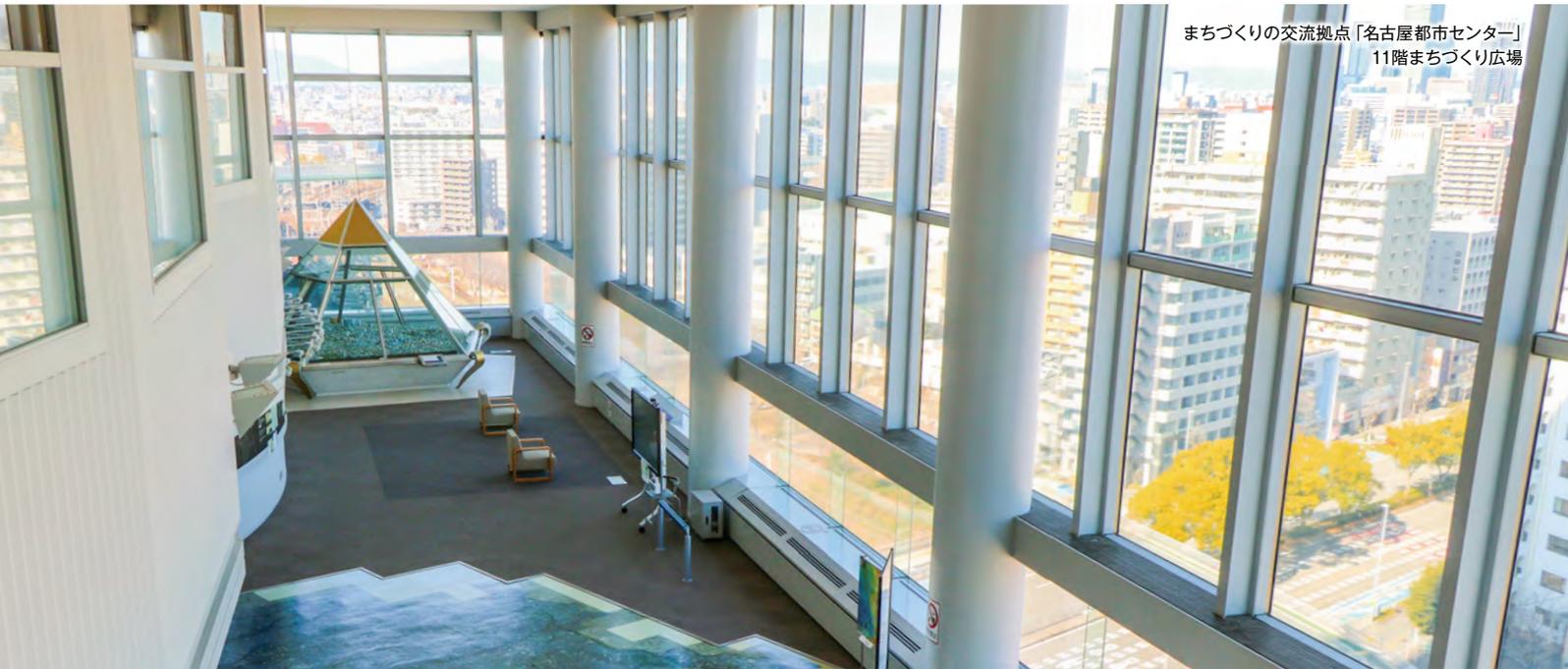


News Letter

ニュースレター

2024.03 vol.126



まちづくりの交流拠点「名古屋都市センター」
11階まちづくり広場



まちづくりお悩み相談・交流会の様子

特集◎ 地域まちづくりアドバイザー大集合!

— まちづくりお悩み相談・交流会を開催 —

調査研究

建築系愛知14大学共通設計競技 「金山駅北地区の駅前空間からまちを考える」

まちづくり来ぶらり

地名に隠れた物語

地域まちづくり アドバイザー大集合!



▲当日の様子

－まちづくりお悩み相談・交流会を開催－

名古屋都市センターでは「地域まちづくり支援制度」で地域が主体のまちづくりを支援しており、その支援メニューのひとつとして「地域まちづくりアドバイザー派遣制度」があります。

この制度や登録している地域まちづくりアドバイザー（以下“アドバイザー”という）のことをもっと知っていただきたい、また、実際に相談をしていただくことで活動のヒントや交流のきっかけになればと考え、令和5年12月3日(日)に「まちづくりお悩み相談・交流会」を開催しました。

アドバイザー9名に加え、ファシリテーターとして名古屋のまちづくりに長年携わる古橋敬一氏(愛知学泉短期大学 講師)・吉村輝彦氏(日本福祉大学国際福祉開発学部 教授)の2名をお招きし、「アドバイザートーク」と「相談・交流タイム」の二部構成で行いました。

第1部 アドバイザートーク

アドバイザーを2つのグループに分け、それぞれ「組織づくり・コミュニティ」と「公共空間活用」という異なるテーマで自己紹介&トークを実施しました。

アドバイザーの専門や経歴だけでなく、趣味や人柄も分かり、参加者との距離が縮まりました。「あのアドバイザーに相談してみたい!」「さっきの話の続きを聞いてみたい!」など、さまざまな気持ちが生まれたところで、次はいよいよ実際にお悩み相談です。



「組織づくり・コミュニティ」



「公共空間活用」

地域まちづくりアドバイザー派遣って?

まちづくりに関する経験や知識が豊富な専門家に「地域まちづくりアドバイザー」として登録いただき、要件を満たしたまちづくり団体へ派遣しています。アドバイザーは、団体の抱えるまちづくりの悩みごとや困りごとについて、専門知識を活かしたアドバイスで、まちづくり活動をサポートします。

登録しているアドバイザーは、現在26名(個人12名、法人6者14名)です。コミュニティづくり、組織運営、経営・会計、公共空間の活用、情報発信など、それぞれ異なる専門分野を持ち、まちづくりの現場で活躍されています。

アドバイザー派遣制度の詳細や、登録しているアドバイザーについては、右記の二次元コードから名古屋都市センターホームページをご覧ください。



アドバイザー派遣の様子(派遣先:大曽根まちそでて会議)▶

第2部 相談・交流タイム

アドバイザーが4つのブースに分かれ、参加者の方々のお悩みを聞きました。
お悩みの例と、それに対するアドバイザーの回答です。

コミュニティ

Q 新しい人が会に入ってこないのですが…

A

回覧板に掲載していても、実際見ている人は少ないもの。地域の口コミや、友達の友達など、会の活動を知っている人の周囲から人を集めてくるのが近道かもしれません。参加してほしい人を具体的に思い描いてみてください。



藤森 幹人氏
まちづくり
コンサルタント

池田 哲也氏
まちづくり
コンサルタント

開発・公共空間

Q 地域の公園を使ってみたいのですが…

A

まずは管理をしている区の土木事務所に相談してみても良いでしょう。また、公園には管理を認められた愛護会がある場合もあります。公園の使用と愛護会の活動は異なるものですが、まずは愛護会に話を聞いてみたり、その活動を手伝ったりしてみると、そこから情報を得られる可能性もありますね。



松井 宏充氏
まちづくり
コンサルタント

川本 直義氏
まちづくり
コンサルタント

井村 美里氏
まちづくり
コーディネーター

経営・組織体制

Q 組織をどう広げていけばいいんだろう…

A

相談者さんの地域はどうやら企業・商店が多い様子。「まちをきれいにするために清掃活動しませんか?」と打診してみてもどうでしょうか。企業であればNOと突っぱねられることも少ないはず。その中で熱心な人を探しつつ、巻き込んでいければ、活動もより充実していきそうです。



葛山 稔晃氏
まちづくり
コンサルタント

遠藤 久志氏
中小企業
診断士

広報・PR

Q イベントに来てくれる人が少なくて…

A

相談者さんの地域は、子育て世代も多いはず。であれば、ママさんのネットワークは強いです。口コミはもちろん、Instagramを見ている世代でもあります。会の内部にそうした方を引き込んで、情報発信を手伝ってもらえると一層心強いですね。



中島 幸子氏
地域情報誌
元編集長

鈴木 瑛司氏
Web・グラフィック
デザイナー

[次ページにつづく](#)

全体まとめ

最後にファシリテーターのお二人からお話をいただきました。



みなさんが取り組んでいるのは、世の中で起きていることの最前線、一番難しい問題です。まちづくりの現場には、行政が政策化する手前の小さな社会問題が山積みです。今日みなさんの話を聞いていると、身近なことが意外と見えなくなっている。アドバイザーの仕事は、みなさんならではの解決方法を見つけるお手伝い。まちづくりの主人公はみなさんです。みなさんが現場で悩みを抱いたときは、名古屋都市センターへ気軽に相談に立ち寄ってみるといいんじゃないでしょうか。

古橋 敬一氏 (愛知学泉短期大学 講師)

今日一番大事だと感じたのは、いろんな人と話すことで、自分が気づいていないことに気づくということ。もう一つ大事なものは、自分の思い込みや、あたりまえを変えていく必要があるということ。若い人にとっては回覧板なんてないのがあたりまえで、それを前提に私たちが工夫しなければいけない。どう接点をつくるのが課題になるが、面白ければ勝手に人は集まる。巻き込まなくたって来なくなる。どうしたらみんなに響くのかを考えていく、その時にこそ、いろんな人と話してみる機会が重要になってくるんじゃないでしょうか。

吉村 輝彦氏 (日本福祉大学国際福祉開発学部 教授)



お悩みは十人十色。それでもアドバイザーと一つずつ課題を整理することで、一人では気づけなかったさまざまな発見があったのではないのでしょうか。第三者に一步引いた目で活動を見てもらうことも、活動の発展のためには重要かもしれません。

もっとアドバイザーの話を
知りたい方へ!

お悩み相談・交流会の
詳細レポートは
こちらからご覧ください。



まちづくり活動でお悩みの際は、ぜひアドバイザー派遣制度のご活用をご検討ください。

派遣には一定の条件があります。

北区 大曽根商店街

つどいタウン&大曽根まちそだて会議

2023年夏、大曽根の2つの商店街「大曽根商店街(オズモール)」と「大曽根本通り商店街(オゾンアベニュー)」に賑わいを取り戻す、新たなつどいの場「つどいタウン」がオープンしました!

つどいタウン

一つの建物にまちを楽しむ4つの店舗が入った複合商業施設です。

sudoitown

1F



猫飼いいノベーション 「ねこへや ta助」

猫と暮らすためのインテリアなどを提案するショールームand猫カフェ。



ランチを作っていた
村田さん&荒川さん

取材日は大曽根まちそだて会議メンバーのみなさんがランチを提供中でした。笑顔とごはんに癒されます!



レンタルキッチン&レンタルスペース 「はじまる」

誰でも借りられるレンタルキッチン&スペース。



レンタルギャラリー 「Art Space stArt」

気軽にアートを楽しめるレンタルギャラリー。



喫茶店 「喫茶はじまり」

あんこスイーツに特化した喫茶店。

2Fは「喫茶はじまり」の客席と「はじまる」のレンタルスペース部分

1F店舗間には仕切りがなく、お客さんが来ると「いらっしやい!最近どう?」と、自然におしゃべりが始まります!

実現までの想いや成り立ち、施設情報は、こちらからご覧ください。



大曽根まちそだて会議とは?

“大曽根まちそだて会議”は、大曽根の商店街を核とし、持続的な地域づくり活動を行うことを目的とした会議体です。大曽根の地域づくりに関心があれば誰でも参加できます。「つどいタウン」の実現までの過程でも、多くの話し合いと情報の共有の場、新しい人材のつなぎ役となってきました。写真のみなさんも会議のメンバーとして参加されています。

最後に、会議のメンバーかつ商店街理事の安藤さんからの想いのこもったお言葉をご紹介します。

シャッターが下りたお店も増えて“残念な商店街”と言われることも多くなりました。

本当は「どこが!?’と思うくらい素敵な商店街だけど、このままの状態では若い世代に引き継ぐわけにはいきません。つどいタウンから商店街に賑わいを広げていきたいです。



ねこへや ta助 喫茶はじまり 大曽根商店街振興組合理事
佐藤さん & 高野さん & 安藤さん

つどいタウンと大曽根まちそだて会議、どちらもまちに暮らす人々が気軽に交流し、新たな発見や活動が生まれる場所になっています。今後も大曽根地域から目が離せません!



建築系愛知14大学共通設計競技

「金山駅北地区の駅前空間からまちを考える」

建築系愛知14^{*1}大学共通設計競技^{*2}は、建築・まちづくりを志す学生から、設定されたテーマ・エリアの今後のまちづくりに向けた提案をいただき、公開で審査・講評をしています。今回は、「金山駅北地区の駅前空間からまちを考える」をテーマに、令和5年12月10日(日)に公開審査が開催されました。計34作品の提案の中から最優秀賞を受賞した作品についてご紹介します。

^{*1} 参加大学数を示す ^{*2} 主催：建築系愛知14大学共同企画展実行委員会 共催：名古屋都市センター

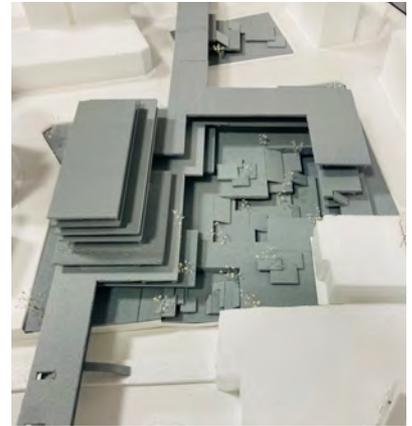
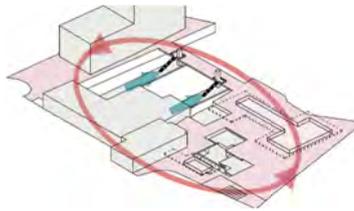
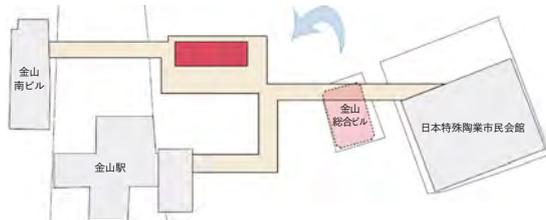
最優秀賞 受賞作品「地下から地上、南へ北へ」

提案者 名古屋市立大学 太幡研究室
岡島 幸希さん 國定 司さん 西川 恒輝さん 箱崎 あいひさん 村上 奈乃葉さん

●金山の現状

- ①まちと文化施設が連動する可能性がある一方で、金山駅と市民会館のつながりは金山総合ビルによって断ち切られている
- ②乗換駅としてのイメージが強く、文化のまちとして根づいていない
- ③金山駅はターミナル駅であるがゆえに、常時混雑している ④駅周辺に公園があるものの、緑が乏しい

●設計コンセプト(抜粋)



- ①金山総合ビルをアスナル金山敷地西側に移転し、市民会館、金山駅、金山南ビルをデッキで繋ぎ、文化を体験できる空間を作る
- ②移転建物は店舗、図書館、オフィス等の機能を融合させ、大階段、ペDESTリアンデッキには滞留空間を混在させる
- ③JRの第二改札口を設け、混雑を防ぎ、立体駐車場は移転建物の地下に移動させる
- ④地下鉄の改札と、移転建物を大階段でひとつなぎにすることで、立体的な人の移動を生み出す



公開審査の講評

- 金山の課題と特徴をしっかり捉えていて、文化・芸術発信の場を作っていくという点を評価した。
- 金山総合駅の南エリアも含めた面的な広がり意識していた点がよかった。
- 金山にどういった都市機能を誘致するのがふさわしいかを考えた時に、オフィスに触れられていた点を評価した。
- 良い提案ではあったが、今後の都市間競争に勝ち抜くための期待感が持てる内容だとより良かった。

【審査員】

西村 浩氏 (株式会社ワークヴィジョンズ 代表取締役)
加藤 義人氏 (岐阜大学 客員教授 / 名古屋都市センター 特任アドバイザー)
田中 良知氏 (金山まちそだて会 会長)
前川 滋美氏 (名古屋市住宅都市局まちづくり企画課 課長)



最優秀賞・優秀賞作品の詳細は、都市センターのHPで公開

提案者へのインタビュー



- 現状の金山地区をどう見えていますか?
⇒乗り換えの場所というイメージで、遊びに行くなら名古屋駅か栄に行きます。
- 今回の提案の中で一番のおすすめのポイントは何か?
⇒北と南をペDESTリアンデッキで繋ぎ、地下から地上へ大階段を作ることで、各文化施設を繋ぎ、新たな人の移動を生み出す工夫をしました。
- 将来の金山地区への期待についてお聞かせください。
⇒偶然通りかかった人にでも面白いと思われるようなまちになってほしいです。また、緑ある空間ができることで、自然の中で何かをしたり、落ち着ける場所になってほしいです。
- サポートした太幡 英亮先生からのコメント
⇒今回の設計競技に挑戦したことは、学生にとって名古屋という都市を考える良い機会になりました。ぜひ今回の提案を市の施策に活かして欲しいと思います。

尾張名所図会
「音聞山」



地名に隠れた物語

私たちが日常的に使っている地名には、単なる場所の呼び名というだけでなく、その土地が抱える歴史や文化、自然の息吹が詰まっています。区画整理が進んだ名古屋の街ですが、色々な背景を持つ地名が残されており、これらの名前が持つ深い意味を探ることで、その土地の魅力に触れることができます。

ある地名は歴史の証人となっています。昔の村や町の名前がそのまま残り、その地域の発展や変遷を感じさせてくれます。例えば、中区「三の丸」は、江戸時代までは名古屋城内に含まれており、本丸・二の丸に続く武家屋敷地として武士が多く住んでいました。

また、その地域の自然環境や風景に由来し自然の美を反映するものがあります。例えば天白区「音聞山」は昔、鳴海潟の潮騒の音が聞こえたといい、千種区「月見坂町」「月ヶ丘」はその名の通り、月見の名所として知られていたことにちなみます。その土地の特徴が伝わる美しい地名です。

文学や伝説の影響を受けていると思われる地名もあります。ある場所が詩や物語に登場することで、その名前が採用されることがあり、その土地に独自の神話的な雰囲気漂うことがあります。「あいち」の地名は、万葉集巻三の

高市黒人の歌「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市潟(あゆちがた)潮干にけらし鶴鳴き渡る」に詠まれている、「年魚市潟(あゆちがた)」の「あゆち」が「あいち」に転じたと言われてます。

そのほか言語の変遷を伝えるもの、特定の産業や伝統に由来するものもあります。名古屋都市センターの所在地である中区「金山」は、尾張鍛冶の発祥地。鉱物や鉱山の神とされる金山彦命を祀る金山神社に由来するとされています。

このように地名は、人々の営みや生活と深く繋がり、地域社会の豊かな歴史を物語っています。

さらに詳しく知りたい方は、こちら

◆参考文献◆

『名古屋地名の由来を歩く』(Se-タ)

『なごやの町名』(Se-カ)

『名古屋地名ものがたり』(Se-ス)

※()内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

図書紹介

『古地図のみみつ 新版「今昔」歴史歩き超入門』

監修:安藤優一郎
出版社:メイツユニバーサルコンテンツ
請求記号:Nc-ア

江戸の人々の視点に立って、江戸時代を中心とした古地図類の見方・楽しみ方を基礎編・入門編・応用編の三つの視角から紹介したものです。基礎編では正確さ、方角、範囲、使用目的などの切り口から各地図の特徴を解説。入門編はカラフルな色彩の「尾張屋敷」の切絵図を中心に古地図のルールや読み方を詳細に解説。応用編では、全国各地の古地図を紹介し、地図から読み取れる特徴や歴史を解説。日本をより深く知るためのヒントが古地図には詰まっています。



『発掘レトロ洋楽館 松坂屋少年音楽隊楽士の軌跡』

著者:長谷義孝、丹羽秀雄
出版社:「発掘レトロ洋楽館」刊行委員会
請求記号:Sc-ハ

東京フィルハーモニー交響楽団の前身となる、いとう呉服店(松坂屋)少年音楽隊出身のバイオリニスト奏者、丹羽秀雄さんが残した音楽の写真と手記を元に、当時の様子を紹介しています。また中日新聞に連載した「発掘レトロ洋楽館:松坂屋少年音楽隊楽士の軌跡」の記事をまとめて載せています。大正から昭和前期にかけての日本の洋楽史の知られざる側面を明らかにしています。



『ART×中川運河』

監修:名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター
出版社:名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター
請求記号:1A-15-ナコ-2023

名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅を結ぶ全長8.2kmの中川運河。中川運河を舞台とする市民交流・創造活動につながるアートプロジェクトの記録写真を中心に新たに撮り下ろした2022年現在の中川運河の光景を紹介したものです。また中川運河ARToC10(中川運河再生文化芸術活動助成事業)の10年にわたる活動の記録でもあります。



1

令和6年度の地域まちづくり支援制度 活動助成の募集が始まります！

名古屋都市センターでは、地域主体のまちづくり活動を行う団体向けに、仲間づくりから実践まで、まちづくり活動の段階に応じた助成メニューを用意しています。助成にあたっては要件があります。

1. スタートアップ助成

「まちづくり活動をこれから始めたい」と思っている、あるいは活動を始めて間もない団体に向けた助成です。

2. 成長支援・実践活動助成

活動を広げていきたいという団体に向けて、地域との関係づくりや公共空間を活用した社会実験の実施、まちづくり構想の策定や、その実現に向けた実践的な活動などを支援する助成です。

以上の2つのメニューで、みなさんの活動を応援します。

令和6年度は4月から募集開始予定です。

※事前相談必須です。

- スタートアップ助成 初申請団体のみ
- 成長支援助成・実践活動助成 全団体

詳しくは名古屋都市センターHP
「まちづくり活動助成」のページをご覧ください。



名古屋都市センター
「地域まちづくり支援制度 活動助成」

2

企画展 「NAGOYAまちづくりの動向」を開催します

名古屋市住宅都市局と名古屋都市センターが共同で開催する本企画。

「まちづくりの現在・未来」を紹介する「NAGOYAまちづくりの動向(名古屋市住宅都市局発行)」のパネル展示等を行います。



名古屋市が取り組んでいる、「ウォークラブル+モビリティ」のまちづくりや、歴史・文化など地域資源に根ざした縦軸のまちづくりについてご紹介します。

場 所:名古屋都市センター11階 まちづくり広場

展示期間:2024年3月22日(金)~5月26日(日)

10:00~18:00

(土日祝は17:00閉館、原則月曜休館)

主 催:名古屋市住宅都市局

(公財)名古屋まちづくり公社 名古屋都市センター

まちづくり講演会 「Nagoyaまちなかウォークラブルな まちづくりシンポジウム(仮称)」

関連イベント

場 所:名古屋都市センター11階 ホール

※講師、日時、申込方法等は、
名古屋都市センターHPをご覧ください。



3

機関誌アーバン・アドバンス No.81発行 特集「学生が参加するまちづくり」

アーバン・アドバンスは、まちづくりに関わる方々の論文、名古屋のまちづくり情報、名古屋都市センターの研究成果などを掲載しています。

81号のテーマは「学生が参加するまちづくり」です。地域社会における人口減少や高齢化により、地域の活力低下や市民活動の担い手不足が問題となっている中、学生が主体的にまちづくりに参加する事例が増えており、今後、学生がまちづくりに参加することで、地域の再生や活性化につながることを期待されます。本号では、学生が参加するまちづくりをテーマに取組事例や今後の展望について特集します。

※本誌は名古屋都市センター12階のまちづくりライブラリーにて販売(定価700円)しております。(令和6年3月末発行予定)



4

名古屋都市センター賛助会員の 募集について

名古屋都市センターの設立趣旨に賛同し、センターの活動を支援して下さる令和6年度の賛助会員を募集しています。

当センターの活動にご理解・ご支援いただける企業・団体・学校・個人の皆様のご入会をお待ちしております。

《賛助会員の種類》

- 法人会員(年会費1口50,000円)
- 学校法人(年会費1口50,000円)
- 個人会員(年会費1口5,000円)

期間:令和6年4月1日から翌年3月31日まで

《会員特典》

- 機関誌「アーバン・アドバンス」、広報紙「ニュースレター」の送付
- 都市センター主催、企画のセミナー等の優先案内(まちづくり講演会、施設見学会等)
- まちづくりライブラリーの利用を優待
- 貸会議室・ホールの利用を優待 ※法人会員のみ
- 都市センター出版物の割引販売
- 税制上の優遇措置

詳細・申込につきましては、名古屋都市センターHPをご覧ください。

令和5年度に実施した事業の一部をご紹介します。

歴史 まちを巡る



歴史まちくんとおとも



従前現況(南面)



移築工事(南面)



歴史的建造物の保存活用について (旧旅籠屋伊勢久)

旧旅籠屋伊勢久は、東海道五十三次の宮宿にあった脇本陣格の旅籠屋で、尾張名所図会でもそれらしき建物が描かれています。建築されたのは、棟札(今は所在不明)によれば文化5年(1808年)のようです。明治維新での参勤交代廃止により旅籠屋を廃業しましたが、戦前までは旅館業を営み、その後会社の社員寮、診療所、アパートと用途の変遷があり、最終的には所有者が住居にされました。

内部の改変は見られたものの、構造材は大部分残っており、正面(南面)の形態は旧状を残していることから、昭和59年に名古屋市長指定有形文化財に指定されました。

その後も所有者により維持・保存されていましたが、建物の老朽化が進んでおり、改修、維持が難しく、また住居としての利用にも不便であったことから名古屋市に相談がありました。そこで新たな建物所有者、建物利用者を探すこととなり、幸いにも建物に興味を持っていた新たな所有者を見つけることができました。

所有者からは、先代が苦勞して守ってきた貴重な財産なので、価値を損ねることのないよう、市が責任をもって対応してほしいとの要望もあり、当社が取得し、保存活用の道筋をつけたのちに譲渡することとなりました。

当社では名古屋市長文化財調査委員会

の委員の協力をいただき「旧旅籠屋伊勢久保存活用計画」を策定し、外面や各部屋の部位(壁、床、天井など)の保護の方針が示されました。また、旧旅籠屋伊勢久は経年による老朽化、脆弱な耐震性、道路支障などの課題を抱えており、一度解体し敷地内に再築する手法をとることとなりました。現在、耐震補強、部材の補修などの工事が進められており、令和6年度には復原工事が完了予定と聞いています。

今回は、公社が間に入るにより、歴史的建造物の保存・活用が実現した一例として紹介させていただきます。



公益財団法人 名古屋まちづくり公社



名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023

名古屋市中区金山町一丁目1番1号 金山南ビル

TEL 052-678-2208

FAX 052-678-2209

<http://www.nup.or.jp/nui/>

ISSN:1341-6820



この印刷物は再生紙を使用しています。

利用案内◎どなたでもご利用いただけます。

- [11階] まちづくり広場
(展示スペース・ホール・喫茶コーナー)
- [12階] まちづくりライブラリー
火～金曜日: 10:00～18:00
土・日曜日・祝休日: 10:00～17:00
※休館日: 月曜日(祝休日の場合はその翌日)、
年末年始
まちづくりライブラリーは、
上記のほか第4木曜日、特別整理期間も休館



SNS
やっています!

